中学校２年　国語　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別				計
	話すこと･聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
＋10％ より高い	0	0	0	0	0
±10％ の範囲内	3	1	3	6	１３
－10％ より低い	0	0	4	3	7
計	3	1	7	9	２０

（２）考察

①　全体について

ア　７割近くの設問で通過率が設定通過率の「±10%の範囲内」または「＋10%より高い」ところにあり、概ね良好である。

イ　「話すこと・聞くこと」の学習状況は、３問すべて±10%内であり、昨年度と比較して改善傾向にある。

②　成果

ア　「書くこと」では、自分の考えを的確に表すために適切な材料を選び、目的や条件に応じて書くことが良好である。

イ　「言語事項」では、漢字の書き、歴史的仮名遣いの理解が良好である。

③　課題

ア　「読むこと」では、文章の展開に即して、内容を捉えたり登場人物の言動の意味を考えたりすることが十分ではない。

イ　「言語事項」では、四字熟語や文脈中における語句の意味理解が十分ではない。

（３）今後の指導

ア　「読むこと」では、文章の展開、登場人物の言動の意味、文脈中での語句の用いられ方や描写の効果など、読むことの技能を意識して高めていく学習を展開したい。

・登場人物の言動の意味については、登場人物の相関関係や話の展開、作品全体にどのような影響を与えているかという視点から捉えるなど、文章全体を俯瞰して読む活動を取り入れる。

・文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめ、感想を交流するなどの言語活動を意図的に設定する。その際、自分の考えの根拠となる場面や叙述を明らかにして吟味し合うなど、読みの精度を高める指導を工夫する。

19)　石川さんと原田さんは、「おめえには、もう何も言うことはねえよ」という祖父の言葉をどのように朗読するかということについて話し合いました。二人の会話から、□に入る原田さんの考えを予想して、二十五字以内で書きなさい。

全国学力・学習状況調査Ｂ問題の出題趣旨を生かした問題

イ　「言語事項」の語句の指導においては、語句そのものの意味を理解させるだけでなく、日常生活を想定した多様な言語活動や文脈の中での意味を捉えさせるよう工夫したい。

・四字熟語などの熟語の学習については、対義の組み立ての熟語や数字を使った熟語を集める、語源を調べるなど、言葉への興味・関心を高めるような指導の工夫を図る。

・語句の意味については、辞書的な意味理解に加え、前後の文とのつながりで推測する力が必要である。文脈の中での微妙な意味の相違については適宜取り上げて考えさせながら、言語感覚を磨き語彙を豊かにすることの大切さを実感できるよう指導する。

12)　③の文の（ア）、（イ）に「積極」、「消極」のいずれかを入れて、三つ目の文を完成させなさい。

③Ａ社もＢ社も（ア）的だが、Ａ社の（イ）性はＢ社ほどではない。

8)　次の二つの□には、反対の意味の漢字が一字ずつ入ります。例にならってそれぞれに入る漢字を書きなさい。

□名□実